



事業名

阪南市から世界へ！「健康無関心層に響く体力・脳力測定システム」の開発
～well-beingを実感できる社会の実現をめざして～



 取組の概要

健康寿命の延伸、医療費と介護給付費を適正化するために健康無関心層の参加を促すため、関西医科大学とコガソフトウェア株式会社で、WEBでの登録要件を極力簡易にした、誰でも利用できる体力・脳力測定プログラムを開発し、体力・脳力の実力を本人にフィードバックすることで、健康事業への関心を高め参加者のすそ野拡大をめざしています。

まずは、実証実験として共創パートナーである阪南市をフィールドに、阪南市の成人への体力・脳力測定プロジェクトを実施して普及拡大を図っています。

スマートシティの推進

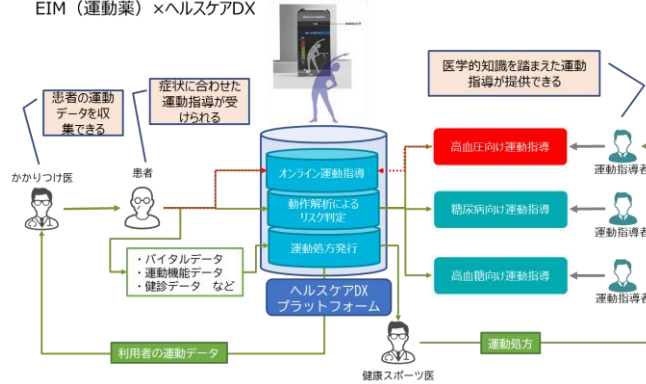


阪南市では、第2期阪南市総合戦略にスマートシティの推進を重点施策に掲げており、令和12年(2030年)までに、南大阪を代表するスマートシティのモデル都市をめざし、ICTやIoTなどを活用して、地域の課題解決に貢献するとともに、より生活しやすい持続可能な地域社会のまちづくりを進めています。

とくに健康分野の課題として、高齢化による要介護者と認知症患者が急増していますが、健康無関心層の健康行動の動機づけできる機会が少ない状況です。そのため、健康無関心層が参加しやすい取組が必要です。

健康無関心層へのアプローチ手法の確立

EIM(運動薬)×ヘルスケアDX

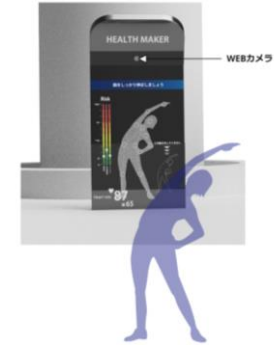


先述した課題を解決するため、令和2年度から令和4年度に「スポーツによる地域活性化推進事業(運動・スポーツ習慣化促進事業)」を活用し関西医科大学・コガソフトウェア・ミズノ及び泉佐野泉南医師会と連携した健康無関心層を取り込むための健康事業を行いました。その結果医師が運動を必要とする患者(健康無関心層)に勧奨することは運動への強い動機づけに高い効果があることが検証できました。

※100名募集の運動教室に156名の無関心層が応募(令和3年度)

また、参加者の96%が教室終了時に運動を継続する意向を示しており、運動の習慣化に成功しています。

DXにより社会保障給付費の適正化を目指す



今回開発する「WEBカメラでの運動機能レベル・体力レベル・認知機能レベルを判定するプログラム」を阪南市での展開を皮切りに、各自治体や企業にも展開し、それぞれの健康事業への参加者へのすそ野拡大を図り、健康増進や生活習慣病の予防、介護予防力・認知症予防力の向上を図り、健康寿命の延伸、介護費用や医療費の適正化をめざします。

また、今回の開発プログラムをベースに「非接触センサーによる身体機能評価システム」へ発展させて、2025年の大阪・関西万博での展示をめざします。

本活動の成果を大阪・関西万博を通じて全国・世界に発信することは、データ利活用等のデジタル化の推進による社会課題・地域課題解決や国策としての国民がwell-beingを実感できる社会の実現に貢献できるものと考えています。



問い合わせ先:大阪府阪南市政策共創室
URL:<https://www.city.hannan.lg.jp>
Mail:seisaku@city.hannan.lg.jp



360°EXPO拡張マップ

関西医科大学、コガソフトウェア株式会社、大阪府阪南市

阪南市から世界へ!「健康無関心層に響く体力・脳力測定システム」の開発